

平成30年度 学校評価報告

草加市立青柳中学校

(平成31年2月13日作成)

1 学校教育目標 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標 (1) 規律ある生活 (2) 確かな学力 (3) 健康・体力 (4) 安全・安心な生活	3 前年度の成果と課題 成果 ○組織を用いて共通理解、共通行動を図り、授業規律が守られ落ち着いた学校生活を送ることができた。 課題 ●不登校解消に向けて、組織体制を構築する。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	○職員間の情報共有が図られ、会議では活発な意見交換があった。 ●校務分掌の引継ぎ、適正化に課題が残った。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○計画的に校内研修が実施された。 ○幼保小中一貫教育の研究発表に向けて組織的に取り組むことができた。 ●研修内容の見直し（学力向上、教育相談等）を図る必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	○計画的に避難訓練を実施できた。 ○感染症対応マニュアルなど適宜周知できた。 ●安全点検の定期的な実施が必要である。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	○施設設備の不具合に迅速に対応できた。 ○個人情報の取り扱いが徹底できた。 ●共有パソコンの整理が必要である。 ●水道関係の改修が必要である。
	⑤地域との連携・開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校評議員の活用 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	○学校だより・学年だより・学級通信を通して学校での様子を発信できた。 ●多くの方が参観可能な学校公開日の設定が必要である。 ●保護者と教職員の会の活動の周知。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の実現に向けた取組 教育課程の編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	○幼保小中一貫教育の発表に向けて、特に小学校との交流を深めることができた。 ●発表以降の幼保小中一貫教育の取り組みを再考していく必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○生徒の実態に合った指導計画を作成できた。</p> <p>○授業時数の調整により時数の均等化が図れた。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○ICT機器を活用し、分かりやすい授業実践を行った。</p> <p>●各教員が授業力をつけていくシステムが必要である（授業参観等）。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○学年全体でローテーションによる授業を実施し、生徒・教職員ともに道徳への意識が向上した。</p> <p>●来年度の教科化に向けての取り組み、特に評価についての研修が必要である。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<p>○どの学校行事にも生徒が積極的に取り組むことができた。</p> <p>●年度当初の学級活動の時間の確保が課題である。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 	B	<p>○生徒に無理のない計画的な時間配分ができた。</p> <p>●指導計画や役割分担が不明確であったので、明確化が必要である。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○情報共有を図り、一つ一つに丁寧に対応することができた。</p> <p>●不登校解消に向けての取り組みの強化が必要である。</p> <p>●相談室登校生徒の対応について再考が必要である。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集、活用 職場体験活動 	B	<p>○上級学校学習会を2学年、卒業生と語る会を3学年で実施し、生徒の進路に対する意識を向上させることができた。</p> <p>●学年に合わせた進路指導方針の詳細な規定が必要である。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<p>○行事などの参加など通常学級と交流を図ることができた。</p> <p>●通常学級で支援が必要な生徒に対し、特別支援学級を含め、対応することが必要である。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<p>○図書館の整備がしっかりなされており、図書館だよりや掲示物が充実により、生徒の興味・関心が高まった。</p> <p>●蔵書が増えてきたが、内容の吟味が必要である。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<p>○ICT機器を活用する教員が増えた。</p> <p>○ICT支援員を活用した授業ができた。</p> <p>●教科でのICT機器の活用方法を研修等で考えていく。</p>

⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○人権教育の校内研修（人権感覚育成プログラム）の活用）を実施できた。</p> <p>●教科との関連について意識的に取り組む必要がある。</p>
-------	--	---	--

(様式2・中学校用③)

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化 ・家庭学習ノートの活用の仕方 ・授業規律の徹底 ・思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実 ・1時間毎の授業改善 	B	<p>○学力向上に向けて組織的に取り組むために「学力向上推進委員会」を立ち上げ、計画的に学力向上を推進した。</p> <p>○重点支援市町・学校に係る訪問により、教職員の学力向上に向けての意識を高めることができた。</p> <p>●家庭学習の取り組みに課題が残った。具体的にどのように取り組めばよいかの提示が必要である。</p> <p>●家庭学習ノートの取り組みが曖昧であった。継続するかは検討が必要である。</p> <p>●教職員一人ひとりが意識し、授業規律をさらに徹底させる必要がある。</p>
	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 ・活発な部活動 ・道徳教育の推進 ・いじめ撲滅への取組 ・居場所作りの支援 ・研修体制の確立 	B	<p>○いじめ撲滅「ストップイット」の取り組みを行った。</p> <p>○いじめ撲滅「ピンクシャツバッジ」の取り組みを生徒会を中心に行った。</p> <p>○委員会活動の進行を生徒に任せることにより、委員長らの責任感が増した。</p> <p>○部活動に活気があり、成果につながった部活動も多くみられた。</p>

<p>5 総合評価（学校関係者評価を含む）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて、組織的に取り組む動きがみられた。家庭や学校での学習習慣が身につくように指導していく必要がある。 ・幼保小中一貫教育の発表により、小学校との連携・交流を深めることができた。来年度以降どのような取り組みをしていくかは検討が必要である。 ・不登校生徒の解消については課題が残った。相談室経営を含めて、教育相談の体制を見直す必要がある。
<p>6 次年度の改善策</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けては、授業改善と同時並行で家庭学習の習慣化が必要である。家庭学習をどのように行うかを生徒に具体的に提示していく必要がある。 ・幼保小中一貫教育では、今までの取り組みを振り返り、来年度の取り組みを精選する必要がある。より実践的な内容の幼保小中研修会を実施する。 ・不登校生徒解消に向けて、教育相談体制を見直し、教室復帰に向けて様々な方面からアプローチできるようにする。 ・安全点検の確実な実施。安全点検票を提示し、全教職員で確実に実施できるようにする。 ・道徳でのローテーション型授業の課題を改善、評価についての統一見解を明示する。 ・生徒指導体制の強化。基本的な生活面を確実に向上できるように組織的に取り組んでいく。 ・校内研修の充実。学力向上、教育相談、ICTなど日々の教育活動と結びつける。

